

＜社会科における活用のポイント＞

- ① ICTを活用した学習場面を想定して「単元を通した授業デザイン」をすること。
- ② 課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるように指導すること。

地理 第2学年 「日本のさまざまな地域」

～北陸新幹線の開業による身近な地域の変化について考察する授業を例に～

事例1 課題を持ち、予想や仮説を立て、解決のために情報を収集する場面

使う機能：提示、共有、収集

- ① 身近な地域の航空写真や地形図等から、新幹線の分布を捉える。
(Google Map、国土地理院 HP)
- ② 整理・分析画像等をもとに、「北陸新幹線の開業によって、身近な地域にどのような変化があるか」という問いを持つ。
(テキストマイニング)
- ③ 問いを解決するために必要な情報を収集する。
(デジタル新聞やインターネット資料) (★)

効果的ポイント

資料を視覚的に捉えたり、考えを共有したりすることで、興味関心が高まり、自分なりの「問い」を持つことができる。



少ない 出る 通勤 宿泊
 増える できる 新しい
 環境汚染 交通量
芦原 便利 観光客
 関東 経済 温泉 地域活性化
 つながる 運べる 工場

① 身近な地域の地図や航空写真を活用。地域によっては、Google Map で北陸新幹線を確認できる。上はあわら駅周辺の様子。
(出典 左：Google Map 右：国土地理院ウェブサイト)

② 「北陸新幹線の開業によって考えられる地域の変化」について、生徒全員が書いたことをテキストマイニングで表し、提示・共有する。(Google Forms や無料のテキストマイニングツール)

事例2 地域が発展するために大切なことを多面的・多角的に考察する場面

使う機能：交流

・ 地域が発展するために大切なことを多面的・多角的に考察するために、新幹線開業に関わる県や市の職員とオンラインでつなぎ、新幹線が開業したことによる変化について、新たな視点を提示してもらう。話を聞いて考えたことを述べたり、質問したりする。(ウェブ会議システム)



効果的ポイント

校外学習等を実施することが難しい状況でも、遠方にいる専門家と、双方向で容易にやり取りができる。本事例を発展させることにより、他校や世界中の人々と容易につながることができる。

外部講師とオンラインでつながり、双方向で交流する。(Zoom や Microsoft Teams など)

出典：文部科学省
 「GIGA スクール構想のもとでの中学校社会科の指導について」福島県提供事例を参考に作成

